



12 / 6 大阪教育大学天王寺キャンパス/地域貢献活動部門主催

穏やかな師走の一日、環境保全活動発表会が開催された。シニア自然大学の大きな理念「自然環境の保全と回復」の一翼を担う地域貢献部門の発表会だ。挨拶に立った児玉 利恒代表理事によると「6年前に一旦中断されていた活動発表会を今回復活することが出来た。自然大学 20 年余の活動・ボランティア実践のあかしをお届けする」とのこと。大阪教育大学天王寺キャンパスに集ったのは 94 名、寄せられたアンケート結果によると参加者の内、男性は 8 割弱、70 代以上が半数と期せずして環境保全に関わる人たちの現状を伝える結果となった。金戸 千鶴子理事の司会の下、講演、活動発表、聴衆それぞれの熱い心で会場は熱気に包まれた。

### 第一部講演「伝統的里山と先進的里山」・・・服部 保先生

里山（里山林）とは日本の植生であった照葉樹林を破壊して人間が作り出したものだ。人々の暮らし、有り体に言えば燃料を取る為に持続的に使っていく林を言う。弥生時代を発祥とする里山では更新・輪伐・芝刈りが定期的に行われ保持されてきた。2000 年～3000 年にわたって人々の暮らしを支えてきた身近な自然、里山だが 1960 年代に始まった燃料革命で大きく変わった。殆どが里山放置林となっている現在、最後の里山が猪名川上流域にある。伝統的里山であるこの里山で、私たちは、昔のままの美しい里山の風景を目にすることが出来るし、生き物が行き来する宝庫、生物多様性の世界をも実感出来る。日本の数々の文献・記録には里山の歴史や記述が多く見られるが、それらをそのまま眼前に出来る奇跡に感動することしばしばである。更に加えればそこが都市近郊にあるのも僥倖だ。原生林が破壊された現在、私たちに残された自然は里山しかない。とは言え、既に半世紀もの年月放置された里山をもとのままの姿に戻すことは不可能だ。しかし生産機能を失った今でも尚里山は十分な価値を持っている。樹林の持つ生物多様性保全などの環境機能、土砂の流失を防ぐなどの防災機能、学習や教育の場としての文化機能において。私たちはこれら放置林を管理する中で新しい里山作りを目指し、次世代の子どもたちに里山を伝えていく必要があるのではなかろうか。



服部 保先生プロフィール  
兵庫県立大学 自然・環境科学研究所名誉教授。専門は植物保全、資源保全学、植生学、植物生態学、保全生態学、民俗植生学。里山の生物多様性保全と里山の再生に関する研究などを行っている。

### 第二部「環境保全活動発表会」

#### 1 菊炭クラブ・・・高木 一字

現在衰退の危機にある日本の伝統文化（里山文化・茶の湯文化）、我々団体はこの伝統文化の継承を目指し伝統的クヌギ里山林の保全活動を行っている。人手と後継者を確保しながらの活動は困難なことも多いが、永く続けていきたいと考えている。主な活動場所は①大阪府豊能郡豊能町牧（境山クヌギ林 通称牧クヌギ林・面積 1.8 ha）と②大阪府豊能郡能勢町下田尻北山（中田尻の森・面積 7000 m<sup>2</sup>）。前者は除草とクヌギの植樹の実施により昔ながらの伝統的なクヌギ里山林の保全を保つ。ここでの活動で花々が年々増え、多くの生き物が棲息するようになった。後者では継続的な除草とクヌギ植樹活動によって新たなクヌギ里山林が出現しつつある。衰退一辺倒のクヌギ里山林復活の第 1 歩となることが期待されている。又、炭焼き技術の継承活動に関しても別途実施中である。

#### 2 里山の山野草を守る会・・・石垣 洋治

活動フィールドは奈良県桜井市三谷地区とその周辺で大和高原の標高 400～500mの中山間地にある。地理的な特徴から外来種の侵入が遅れ山野草が温存されてきた。幸いというべきか農地改理事業の基盤整備が無かった為に昔ながらの水路や湿地が維持され植生が残った。我々は奈良県レッドデータブックに記載されている山野草 100 種を選定、生育をすると共に里山環境の保全を目指している。三谷地区とその周辺 1 haほどのフィールドを 12 箇所に分けて、4つの班で分担しての活動だ。①助成金の確保②マンパワーの増強と高齢化対策③個々の植生にふさわしい保全方法の確立をはかる④獣害対策の持続等々を課題としつつの地道な活動だ。2015 年には環境省の「重要里地里山 500 選」にも選ばれ努力

の成果が認められた。

### 3 いこま棚田クラブ・・・出口 育宏

活動拠点は生駒山中腹（標高 400m）の暗峠越え奈良街道にある生駒市西畑町の棚田。2003 年 10 月の「いこま棚田クラブ」設立から 14 年、現在会員は 70 名。定例活動は累積 700 回を数え毎活動日には 30 名を越す参加者が続いている。当初から私たちは棚田について学習する中で様々なことを学んできた。棚田はダム、地すべりや土砂の流出を防ぎ平野を守る。又、気温を調節し水や空気をきれいにする。この棚田の大切な働きを機会あるごとに子どもたちや訪問者に伝える活動もしている。景観整備・援農・自然環境教育を 3 本柱としての活動は、荒廃した棚田・里山を再生してきた。地域で育む里山づくり事業（奈良県）にも参加、「菜の花エコプロジェクト」（ならコープ協働）を行って 11 年が経過した。棚田・里山の魅力と地域の方々との繋がりを喜びとして活動をしてきた今、四季折々の美しい棚田の景観に生駒市近郊の人々から賞賛される日々だ。

### 4 東別院ふれあい道場・・・下野 武志

シニア 12 期 2 班で卒業を機に設立、会員は現在 13 名。活動拠点は石田梅岩先生（江戸時代の石門心学の開祖—正直・勤勉・質素）生家（亀岡東別院）の休耕田及び里山である。生家継承者の石田さんの指導を受けながら稲作（うるち米・もち米・紫黒米）及び野菜類の栽培と里山の管理支援を行ってきた。農作業を楽しみ、メンバー相互の健康の増進と地域社会との交流を図るという初期の目的は十分に達成されている。特に地元東別院小学校とは田植え～稲刈り～餅つき等を行っている。又、今年度申請された特認校（小規模校の特性を活用し自然環境を生かした特別教育を実施）に対しての支援を予定している。尚、石田梅岩先生顕彰会の活動に参画（梅岩道の点検・補修）し、おりにふれ先生の思想に触れる機会を設けている。

### 5 たかつき竹和の会・・・佐々木 正明

平成 15 年（2003 年）2 月 20 日設立、現在会員は 34 名。活動は①高槻市民憩いの場・芥川緑地の美化と環境保全②「ほのぼのフレンドパーク」内の「自然・ふれあい広場」の自然環境を守り、拠点としてイベント行事を開催する、が中心だ。イベント行事では近隣住民や子どもたちと自然を学びながら楽しく交流する場を提供している。地域周辺には山林があり、上流や急斜面には竹林が多く残されている。これらの環境の保全は自然環境を維持する上での重要課題となっている為、整備することと美観の保持に特に力を入れている。竹についての勉強会やアクアピア芥川でのワークショップも企画・運営しているが、今後は製造した竹炭の販路開発に努めたい。現在は様々の活動が地域住民からとても感謝されている。

### 6 研究部・森林文化科・・・須藤 順一

森林文化科のコンセプトは「山を楽しみ、森に親しみ、樹に学ぶ」だ。森林と人間生活の係わりについての知識を深め、豊かな森林を次世代に引き継ぐために何をなすべきかを考え、里山林の再生と保全等をモットーに活動を展開している。28 年度に行った活動は①森林を対象とする環境保全活動（府立山田池公園東山地区を雑木林として復元させる・河南町「高貴寺」社叢林で桜に花を咲かせ、スギ・ヒノキの成育を図る為の整備・大阪教育大学柏原キャンパスの森林部分での里山森林再生プロジェクト・天王山で、竹の侵入を抑えて竹林を広葉樹林へ転換するための活動等。）②教育啓発活動としては山田池公園フェスティバル（丸太切り・間伐材を使った自由工作・ミニ講座）や万博ネイチャーラリー（ヒノキの丸太切り・竹切り・ジグソーパズル作り、樹木見本展示）。③森林と文化の関係を対象とする自然観察会、施設見学会の実施を行っている。又、毎年テーマを定めて調査研究に取り組んでおり、昨年は「木村山整備林の調査報告」、一昨年は「適地適木 ヒノキの適地は」を研究した。

いずれもパワーポイントを駆使した力のこもったプレゼンテーションで、先生のユーモア溢れる話術に会場は大いに沸いた。又、各グループの方々が生き生きと活動し、地域からも支持を得ている様子がよくわかった。聴講しながら「ここにシニア自然大学あり」の意を強くしたことだ。地域活動担当の加茂 隆宏理事によると高齢化と負担費用の問題は各グループ共通で、大学から環境保全活動への支援金が毎年 6 団体に

出されるとのこと。今後も活動を紹介する機会を設け、活動場所への見学・実体験も企画したいとお話だった。盆地に育った私には里山はごくごく近い場所だった。里山の芽立ちから新緑萌える夏、錦の紅葉、落ち葉散る初冬と飽きることのない季節の移ろい、小鳥の囀り、そこにひょいと現れる小動物の愛らしさ。とても気持ちのいい空間はまさに「人の暮らしと生きものたちの世界が重なり合う場所・・・今森 光彦」だった。しかし今はもう失われた風景だ。

環境保全に取り組む皆さんに心からの敬意を表するとともに、見学ツアーが実施される際には是非参加したいと思いつつ、温かい気持ちに満たされて会場を後にした。



各活動グループのパネル展示に見入る参加者

（広報 文・伊賀上 写真・井浦）